

# 「受験英語」をネイティブスピーカーは使うのか？ 日本人学習者の犯す文法ミスは本当に誤りか？

山口 貴士

## 1. はじめに

大学入学共通テストでは文法問題が出題されなくなった一方、私立大学をはじめ多くの大学では今でも文法問題が出題されている。そして、入試問題を分析した結果から、高校生が使用する文法テキストが改変される。そこで、大学入試の文法問題で出題される英文法（いわゆる「受験英語」）をネイティブスピーカーは実際に使うのか、という疑問を抱き、それを調査することで、現場での文法指導に生かしたいと考えた。また、日本人学習者が犯しがちな文法ミスは本当に許容されないのか、という点についても調査し、「文法ミス」と言われる表現の容認度についても見直すことで、文法指導の在り方を考えていきたい。

## 2. 調査(その1)

以下の通り、「受験英語」の使用について調査を行い、Written English(以下、WE)と Spoken English(以下、SE)のそれぞれで判断してもらい、結果を得た。

### 【調査対象者】

アメリカ人 ALT 3 名・カナダ人 ALT 1 名

### 【判断スケール】

- 5… generally used
- 4… often used
- 3… sometimes used
- 2… seldom used
- 1… never used

### 【判断方法】

4 人の ALT から得た数値の平均を取り、5 に近いほうが使用される傾向にあり、1 に近いほうが使用頻度は低いと考える。

### 【提示例文(下線部が文法項目)】

- ① She never visits me without leaving something behind.
- ② I make it a rule to walk 30 minutes a day.

③ He often speaks ill of others.

④ The train was delayed on account of the accident.

⑤ It is worthwhile listening to her speech.

⑥ I awoke to find myself in a strange room.

### 【調査結果】

例文番号と文法項目	平均値	
	WE	SE
① never ... without <i>doing</i>	3.5	▲ 3.3
② make it a rule to <i>do</i>	4.8	4.3
③ speak ill of ~	4.8	4.0
④ on account of ~	3.5	▲ 3.0
⑤ worthwhile <i>doing</i>	▲ 3.3	▲ 2.8
⑥ awake to find <i>oneself</i> ...	4.3	▲ 3.0

\* 平均値が 3.5 未満の表現に▲を付している。

### 【考察】

WE と SE の数値を比較すると、「受験英語」ということもあってか、①から⑥まで共通して SE のほうが WE よりも低い数値になっている。②の表現について、make it a rule to *do* はもはや「廃用」だとする見解(佐久間, 2013)もあるなか、本調査では高い平均値を得た。最も平均値が低かった表現が⑤ worthwhile *doing* であり、「worthwhile to *do* のほうが自然」という意見があった。Google Ngram Viewer で仮に(a) worthwhile visiting と(b) worthwhile to visit を検索した結果が《資料 1》である。

《資料 1》



ただし、「～する価値がある」という意味で最も使用頻度が高い英語表現は *worth doing* であった。

### 3. 調査(その2)

続いて、多くの日本人学習者が誤って使用しがちな表現を5つ取り上げ、「調査(その1)」と同じ対象者に以下の通り調査を行った。

#### 【判断スケール】

3 … natural

2 … a little bit strange

1 … strange

#### 【判断方法】

「調査(その1)」同様、平均値が3に近いほうが容認度は高く、1に近いほうが従来通り避けるべき英語表現だと考える。

【提示例文(下線部が誤りとされる文法)と本来の英文法(●を付した表現)】

① I am looking forward to see you at the party.

● look forward to *doing*

② He informed his parents about his success in the final exam.

● inform + 目的語 + of ~

③ I would appreciate if you could help me with my assignment.

● appreciate it if ...

④ Mary hasn't received any news from him, that makes her anxious.

● ~, which ... (関係代名詞 *which* の非制限用法)

⑤ Boys account for 253 of the students.

● account for + 割合

#### 【調査結果】

例文番号と誤りとされる文法項目	平均値
① look forward to <i>do</i>	1.8
② inform + 目的語 + about ~	○ 2.8
③ appreciate if ...	○ 2.5
④ ~, that ...	1.0
⑤ account for + 数量	1.8

\* 平均値が2.5以上の表現に○を付している。

\* 1名のALTが①と④の表現を(判断スケールにはないが)“wrong”とし、「0点」として回答した。

### 【ALTからの主なコメント】

① look forward to <i>do</i>
• “Look forward to see you” is just wrong.
② inform + 目的語 + about ~
• Pretty natural but there's a difference in nuance; “of his success” implies telling simply “that he succeeded,” whereas “about his success” implies telling further details, perhaps of his score, the questions, his feelings or whatever.
③ appreciate if ...
• I'd include “it” in writing but I don't consider it an error or even especially noteworthy to omit it in speech.
④ ~, that ...
• Semicolon would be fine, but this is wrong.
⑤ account for + 数量
• Using “account for” to specify an exact raw number is strange.

#### 【考察】

②と③の容認度が高く、特に②では、of/aboutともに概ね容認される(ただし若干異なる意味を表す)ようである。また、③においては、“I don't consider it ... especially noteworthy to omit it in speech”というALTのコメントがあった。itは弱形で発音されるため、itがなくても違和感をもたない、もしくは、正しい文法ではitが必要であることを知らない(気づいていない)ネイティブスピーカーもいるのかもしれない。

### 4. 結論

今回取り上げた「受験英語」は、私の思惑とは裏腹に、概ね「使用される」という結論に至った。また、調査(その2)で今回取り上げた誤りとされる文法の中には、実際には容認されるものが複数あった。「受験英語」には一部、使用頻度の平均値が低い表現があったが、今後も調査を重ね、指導に生かしていきたい。

### 参考文献

佐久間 治(2013). 『ネイティブが使う英語・避ける英語』 研究社

(愛媛県立東温高等学校 教諭)